

様式第10(第9条の2関係)

汚濁負荷量測定手法届出書

○年 ○月 ○日

下関市長 殿

届出者 〒751-0847
下関市古屋町一丁目18番1号
株式会社下関
代表取締役 環境 太郎

水質汚濁防止法第14条第3項の規定により、汚濁負荷量の測定手法について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	株式会社下関 下関工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	下関市古屋町一丁目18番1号	※受理年月日	年 月 日
△汚濁負荷量の測定手法	別紙のとおり。	※備考	

- 備考 1 △印の欄については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。

別紙

特定排出水の化学的酸素要求量に関する汚染状態、特定排出水の量その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項の計測方法及び計測場所

1 特定排水等の化学的酸素要求量に関する汚染状態及びその量の計測方法

計測場所		A	
計測方法		特定排水を直接計測	
汚染状態又は量の区分		汚染状態	量
計測場所における 特定排水等の状況	種 類	特定排水	特定排水
	通常値	10mg/ℓ	500m ³ /日
計測法区分		告示別記1の1	
自動計測機器の種類・型式		UV 計 ○○社製 COD1234	電磁流量計 ○○社製 FR-100
換 算 式		$y = 1.234x + 5.678$	—
知事の定める要件の適用項目			
計測回数		毎日	毎日
設置等の予定	着 工 (予定) 年月日	○年○月○日	○年○月○日
	完 成 (予定) 年月日	○年○月○日	○年○月○日
	試運転開始(予定)年月日	○年○月○日	○年○月○日
	使用開始 (予定) 年月日	○年○月○日	○年○月○日
備 考			

・機器の名称、製造会社名、型式を記入
・手分析の場合、指定計測法と記入

2 特定排水等の化学的酸素要求量に係る1日当りの汚濁負荷量の算定方法

計測場所		A	
算定に用いる算式		$L_c = C_c \times Q \times 10^{-3}$	
算定方法		水質汚濁計測器と流量計で自動演算し、1時間及び1日の負荷量を算定する	
汚染状態の計測	計測器の種類	UV計 〇〇社製 COD1234	
	換算式	$y = 1.234x + 5.678$	
	計測回数	毎日	
量の計測	計測器の種類	電磁流量計 〇〇社製 FR-100	
	換算式	—	
	計測回数	毎日	
特定排水の汚染状態 (通常)		10mg/ℓ	mg/ℓ
特定排水の量 (通常)		500m ³ /日	m ³ /日
特定排水の汚濁負荷量		5kg/日	汚濁負荷量 (kg/日) = 特定排水の汚染状態 (通常) (mg/ℓ) × 特定排水の量 (通常) (m ³ /日) × 10 ⁻³
汚濁負荷量の全体に占める割合		100%	%
排出される排水口名		No. 1 排水口	
1日の周期		0時～24時	
備	考		

別紙

特定排出水の窒素含有量に関する汚染状態、特定排出水の量その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項の計測方法及び計測場所

1 特定排水等の窒素含有量に関する汚染状態及びその量の計測方法

計測場所		A	
計測方法		特定排水を直接計測	
汚染状態又は量の区分		汚染状態	量
計測場所における 特定排水等の状況	種 類	特定排水	特定排水
	通常値	8mg/ℓ	500m ³ /日
計測法区分		告示別記1の1	告示別記1の1
自動計測機器の種類・型式		全窒素・全りん自動測定器 〇〇社製 NP-1234	電磁流量計 〇〇社製 FR-100
換 算 式		—	—
知事の定める要件の適用項目			
計測回数		毎日	毎日
設 置 等 の 予 定	着 工 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	完 成 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	試運転開始(予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	使用開始 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
備 考			

2 特定排出水等の窒素含有量に係る 1 日当りの汚濁負荷量の算定方法

計測場所		A	
算定に用いる算式		$Ln = Cn \times Q \times 10^{-3}$	
算定方法		水質汚濁計測器と流量計で自動演算し、1 時間及び 1 日の負荷量を算定する	
汚染状態の計測	計測器の種類	全窒素・全りん自動測定器 〇〇社製 NP-1234	
	換算式	—	
	計測回数	毎日	
量の計測	計測器の種類	電磁流量計 〇〇社製 FR-100	
	換算式	—	
	計測回数	毎日	
特定排出水の汚染状態（通常）		8mg/ℓ	mg/ℓ
特定排出水の量（通常）		500m ³ /日	m ³ /日
特定排出水の汚濁負荷量		4kg/日	汚濁負荷量 (kg/日) = 特定排出水の汚染状態 (通常) (mg/ℓ) × 特定排出水の量 (通常) (m ³ /日) × 10 ⁻³
汚濁負荷量の全体に占める割合		100%	%
排出される排水口名		No. 1 排水口	
1 日の周期		0 時～24 時	
備	考		

別紙

特定排出水のりん含有量に関する汚染状態、特定排出水の量その他の汚濁負荷量の測定に必要な事項の計測方法及び計測場所

1 特定排水等のりん含有量に関する汚染状態及びその量の計測方法

計測場所		A	
計測方法		特定排水を直接計測	
汚染状態又は量の区分		汚染状態	量
計測場所における 特定排水等の状況	種 類	特定排水	特定排水
	通常値	5mg/ℓ	500m ³ /日
計測法区分			
自動計測機器の種類・型式		全室素・全りん自動測定器 〇〇社製 NP-1234	電磁流量計 〇〇社製 FR-100
換 算 式		—	—
知事の定める要件の適用項目			
計測回数		毎日	毎日
設 置 等 の 予 定	着 工 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	完 成 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	試運転開始(予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
	使用開始 (予定)年月日	〇年〇月〇日	〇年〇月〇日
備 考			

2 特定排水等のリン含有量に係る1日当りの汚濁負荷量の算定方法

計測場所		A	
算定に用いる算式		$Ln=Cn \times Q \times 10^{-3}$	
算定方法		水質汚濁計測器と流量計で自動演算し、1時間及び1日の負荷量を算定する	
汚染状態の計測	計測器の種類	全窒素・全りん自動測定器 〇〇社製 NP-1234	
	換算式	—	
	計測回数	毎日	
量の計測	計測器の種類	電磁流量計 〇〇社製 FR-100	
	換算式	—	
	計測回数	毎日	
特定排水の汚染状態 (通常)		5mg/l	mg/l
特定排水の量 (通常)		500m ³ /日	m ³ /日
特定排水の汚濁負荷量		2.5kg/日	汚濁負荷量 (kg/日) = 特定排水の汚染状態 (通常) (mg/l) × 特定排水の量 (通常) (m ³ /日) × 10 ⁻³
汚濁負荷量の全体に占める割合		100%	%
排出される排水口名		No. 1 排水口	
1日の周期		0時～24時	
備	考		

3 その他汚濁負荷量の測定について参考となるべき事項

資本金	〇〇万円	操業開始年月日	〇年〇月〇日
常時使用する 従業員数	100 人	年間操業日数	300 日
1 日の排水時間	7 時 ~ 19 時	1 日の操業時間	7 時 ~ 19 時
排出水の量	500m ³ /日	担当部課係名	環境保全課
特定排出水の量	500m ³ /日	担当者名	環境 花子
特定排水以外 の排出水の量	0m ³ /日	電話番号	083-252-7151
その他			

添付資料

- (1) 試料の採取及び試料の計測場所並びにこれらを表わす図面等
 - ア 用水及び排水の系統図 添付第 図のとおり
 - イ 配置図 添付第 図のとおり
 - ウ 採取場所及び計測場所形状図 添付第 図のとおり

- (2) 差し引き方式により測定する場合
告示（平成13年環境省告示第77号。以下同じ。）第1，第2及び第3の計測方法により計測することが困難である根拠及び、差し引き方式が適当である根拠
別添 のとおり

- (3) 汚染状態を告示別記1の(2)の計測法により計測する場合
（日平均排水量400m³以上の指定地域内事業場に限る。）
告示別記1の(1)の計測法によることが適当でない根拠
別添 のとおり

- (4) 汚染状態を告示別記1の(3)の計測法により計測する場合
（日平均排水量400m³以上の指定地域内事業場に限る。）
告示別記1の(1)又は(2)の計測法によることが困難である根拠
別添 のとおり

- (5) 量の計測を告示別記2の(3)の計測法により計測する場合
（日平均排水量400m³以上の指定地域内事業場に限る。）
告示別記2の(1)又は(2)の計測法によることが困難である根拠
別添 のとおり

- (6) 用水の量を計測し特定排出水等の量を計算することにより
特定排出水等の量を計測する場合
直接に特定排出水等の量を計測することが困難である根拠
別添 のとおり

- (7) 原則の測定回数によることができない場合
原則の測定回数によることが困難である根拠
別添 のとおり

- (8) 計測器等の選定根拠 別添 のとおり